夕刊
磐城新聞
六月三日發行
（日曜祭日翌日休刊）

綠蔭偶語 上

坪田讓治

庭の半坪ばかりに咲いてゐた栗の花も散りました。傍にあるユスラ梅の白い花も散つて、もう小さな青い實が若葉の蔭に見えてをります、若葉の季節になつたのです、日が暖かでしかも地上に木々の影が濃くなりました、木の枝に葉がそよぐやうになつたのです

そんな一日、庭に立つとき私は色々のことをおもひます。歳のせいでせうか、昨日來た友達の手紙にも『もう人生の峠を越え』と書いてありました。自分では十七、八の時の私も、二十八九の時の自分も、そして今四十七になつた私自身も心持において何の變りもないやうに思ふのですけれども、それは自分といふものが變らないばかりに、唯だそう意識するばかりなんでありませうか

でも、考へてみて下さい私は生れた時、父から坪田讓治といふ名をつけて貰ひました、其時は赤ン坊の坪田讓治だつたのです。それが今は四十七歳、三人の子供を持ち、妻と共に一家を支へる私であります。赤ン坊の私と、今のこの私と、同一であるとは、何で考へることが出來ませう。それなのに、赤ン坊の私も私であり、今の私も私である。つまらぬ疑問と笑はないで下さい。風にそよぐ若葉の蔭で考へたことです、つまり生命の不思議さです。個性といふものに對する、いや、自己といふものに對する反省なんです

昔の哲學者が『われ思ふ故にわれあり』といひました。そして認識の主體を、即ち自己といふもの〻存在を、哲學的に表現しました。主觀の確立なのでせうか、客觀的にいへば、赤ン坊の私と、現在の私とは、似てもつかないものであります。然し私自身で考へれば、赤ン坊まではわかりませんけれども、記憶にある限りの私は、その時もやはり私であつて、他の誰でもなかつたことを認識いたします。

それはかりか、その時の私も今の私と、何の變りもないやうな氣さへするのです。いつたい、これはどうしたことなんでせう。但しこれは認識の主體としての自己をいふのではありません

山行遇友

珠瓊　小野務平

林外鳩啼送斷春
百花無跡新綠新
山中握手欣奇遇
行作聯肩敲句人

蛙

田村しげを

いちごの葉に
蛙が三匹ならんで
話して居た
私が行くと
大きな目を
くる〳〵廻して居たよ
それは
綠色の可愛い
蛙だつたよ

初夏

樂しい　樂しい
夏が來た
若葉も伸びて
葉となつて
山は一面綠色
野原は一面日が照つて
風に香りがついて來る

句帳から

夕立にた〻かれてゐる牛車かな　白馬
おのづから涼風を生む大樹かな　孤舟
五月雲支へてそ〻る野杉かな
毛虫燒く火を點しけり古箒
桑根株嵩塊として梅雨の畑
岩燕のひよろ〳〵道や青芒　瞬花
白服に日燒けきはだつ巡査かな

磐城歌壇題詠復活

久滿夫選

六月題詠　新妻
『麥』　歌數自由
『雲』
締切　六月二十日

6月4日

△紫田勝家長光寺の籠城に水甕を割り士氣を鼓舞す（元亀元）△我國最初の水力發電所京都に開設（明治二五）△土方日銀總裁辭職（昭和一〇）

影を抱く女

(15)

山路不二男

祝福すべき結婚を、何故に、殊更逃避するのか？、その眞意を掴み解するのに困惑した

靖司自身を對照とし、結婚逃避後理由の端緒を探し當てることが、不可能でもないが、背負ひ過ぎた『愚かな當推量であると想つた本來の勝氣と、今迄の結婚觀、現在に横たはる津村の問題等から推察し、どうしても拒否出來ないことを識つた靖司は、結局、文子の申し出を承諾した。――それが文子の幸福を齎らすことであつたらと、註譯を加へて。文子は悅んだ。今初めて生活の進路に確呼とした道筋を發見したかの如くに――

彼女は、靖司を凝視し續けた。物語るが如く、訴へるが如く、求むるが如く、瞳孔は、微妙の動きを見せてゐた。鐵石でなく、佛陀でなく、勿論、ロボットでもない彼だ。複雜した動搖の色が、ありありと現はれた

相倚る魂、相覗く瞳、相接する距離。俄然、彼の胸裡を衝いた、義兄と呼ぶ良心の強襲だ。彼は義兄の境遇故に、二重の誘惑と敢然戰ひ、純情な女性の希求心を、沈默のうちに退けてゐた

一瞬の衝撃による感情の爆發に依つて印された唇が、なんの罪惡にならう。なんの契約を意味しよう。高潮した頰、燃ゆるやうな瞳は唇はおろか、人生最高の、第二の生命。それまで捧げる決心の意味を漂はしてゐた

二十二歳の今日まで、純潔な唇を譲り、清淨無垢な身体を固く抱いてきたことが、皆お義兄さまを戀しておればこそ。言葉には出さないが、表情演出で遺憾なく、切實な胸の裡が現出されてゐた

小說 高橋是清

(30)

松浦泉三郎作　佐々木今朝吾畫

大童信太夫（五）

『判りました』

和喜次はハッサリと言つて

『その科學とやらが、直ぐに修業出來るのでございませうか？』

『それは無理だ』

信太夫は和尚を顧みて微笑しながら

『横濱に參つたら、先づ手初めは英吉利の言語學だな……向ふの文字が讀め、異國人と話が出來なければ、何をするにも無理と言ふものだからな』

『私に出來ませうか？』

和喜次の眸には充分の決意が見えた

『出來る！　わしが出來る。と見て選んだのだからな。而も向ふの文字の基本は、いろは四十七文字に較べたら、僅か、半數に近い廿六文字。これで出來ぬやうなら、男子一匹、腹でも切つて了つた方が宜い。異國人の子は生れた時から異國語を喋舌るぞ。おッはッはッ……』

和尚も釣りこまれて笑つた

和喜次は決然と言つた

『修業に參ります！』

『やるか！』

『はい』

『費用は悉く殿樣からお下げ渡し下さるぞ。怠けられぬぞ』

『心得て居ります。和尚様のお許しを戴いて下さいませ』

『和尚……』

『お前の出世の道が拓けることぢや。わしに異存などあらう筈がない。したがの、和喜次、向ふに參つたら、今までのやうな惡戯はならぬぞ。宜いかの。それに背くと、お留守居役様のお心に背くことにもなり、又勿體なくも、殿様にも不忠の臣となる。屹度愼まねばならぬが、宜いか？』

和尚の言葉には、慈父の愛情がこもつてゐた。和喜次は深く頭を垂れて

『判りました。必ず言葉通り怠りなく勉めます』

『宜いの』

『は』

信太夫が

『和喜次、仕合せなことに祖母殿も一緒に參りたいと申して居るぞ』

『あの、祖母様も……』

和喜次の頬に、又新しい喜悅の色が濃かつた

『嬉しいか』

『はい』

『ははは……』

信太夫は晴れ〴〵と笑つた

『和尚、おかげで一人は、ご覧の通り、やうやく御快諾を戴いて喜ばしい』

『はははは……』

和尚も笑つて

『これで六之助とやらの人物さへ宜くば……』

『早速殿へ言上して、出發の手配が出來る譯だ。日本にも、かうした少年がどん〳〵現れて、新らしい強力な、文明國を建設して欲しいものだ。舊弊を言つてゐられる時代ではないからな』

『左様！』

和尚も大きく頷いて

『では祝意を表して、甘柿でも、もぎませうかな。はははは……。和喜次よ、來ぬか！』

さう言つて、又、庭へ下りた

庭は暮色だつた

×

鈴木六之助少年は、後年日本銀行出納局長とまでなつた、鈴木知雄であつた。木村大三郎は信郷と改めて後年陸軍大佐に任命されてゐる

一行四人の宿所は太田町に決められた。支那語通譯太田原三郎と言ふ人の役宅の一部を借りて建てた、十疊敷ばかりの家だつた

元治元年のことである

和喜次時に十二歳

廣告

株ハ一株ヨリ、債券ハ一枚カラ賣買致シマス。
友部株式店
平町三丁目
電話一七七番

日本の家庭藥必備
トフメル
皮膚に　外傷に　化膿に
平町田町
阿部藥舖

夏服御用意は
信用堂へ
平町三丁目…電一六一三

ダイナモ
バッテリー
マグネット
電氣ドリル
船舶用發電機
日本瓦斯工業株式會社
瓦斯發製機代理店
平町紺屋町
久野電機
電話七二一番

勉強ノ店（良クテ安イ）
建築美品
床柱、天井板、ベニア板
新入荷品、秋田杉四分板、
山川印優品建具材
内外銘木
建築木材一式
便利瓦、木羽
㊍織田材木商店
平町紺屋町
電話平四六〇番
◎建築木材類ノ御用命ハ誠實勉強ノ當店ニ◎

柳津虚空藏尊參詣
コース　猪苗代湖—野口英世博士生家—國寶立木觀世音參詣—白虎隊參詣—東山温泉—虚空藏尊參詣
期日　六月十日午前八時出發
東山温泉一泊
會費　金五圓…御一名樣往復
自動車賃金、宿泊料、賄食料共
どなたも御申込下さい。
主催　尼子自動車商會　遊覽部
電話六四〇

夜間診療
胃腸　性病　專門
内科
胃腸病科
花柳病科
性病科
皮膚科
（見習看護婦募集）
松村胃腸性病科醫院
（平町南町電一〇七番）

五月人形!!!
●鯉のぼり!!
●甲冑揃!!!
日本男兒の意氣を壽ぐ
尚武の節句が近づきました
御祝品の御用命はフクダヤへ
大好評の弊店特製鯉のぼり御注文はお早く
二丁目
フクダヤ祝品部

耳鼻咽喉科專門
醫學士　鈴木正男
平町田町（電話五八番）藤田女學校前
齒科口腔外科
日本齒科醫學士　鈴木喜政
『入院のお需めに應ず』
（看護婦及び見習看護婦募集）
鈴木醫院
内郷村高坂　磐炭病院前

實家ハ靜岡産地ノ茶問屋
製産家カラ直接需用家ヘ
香味自慢生一本小笠銘茶
安價提供出來ル皆樣ノ店
買テ喜ビ賣テ喜ブ理想ノ店
卸小賣
大角園
平町揉雄小路

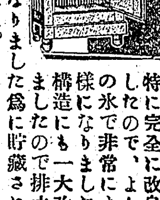
内臓外科一般
外科花柳病科
（入院隨意）
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

坊やの名前
五月青葉のそよ風と生れた可愛坊や
姓名學で名をつけて日毎に太つて丈夫にそだつ、やがて黄金の波湧きて、一生幸福良い名の坊や
日本姓名學會東北支部長
鵜沼孝昌
（平町紺屋町三六）

産科
婦人科
花柳病科
午前宅診
午後往診
入院應需
井坂醫院
平町田町（元合津醫院跡）
電話五五九番

品質第一
電話二六八番
平牛乳舍
平町・九品寺前

僅かの氷で非常に早くよく冷える
……丸ほん冷藏器……
御家庭にも御營業にも最も理想的な冷藏器



今年は外壁の絶縁裝置を特に完全に改良を加へましたので、より一層僅かの氷で非常によく冷える樣になりました、内部の構造にも一大改良を加へましたので排水が良くすべて便利になりました爲に貯藏される期間も延長されました。
價格は……精選した材料を完備した製法に依る大量製産の爲め良品を廉價に御提供する事が出來ます。
株式會社　丸ほん商店
營業所　平町三丁目一六　電話三五九番　振替東京二一七二四
製作所　平町新田前　電話一八二番

地方民多年の懸案！國道は是非改修せよ

あす沿線町村長が平町に會合し當路へ陳情の打合せ

濱の久＝來勿

地方民多年の懸案たる勿來―久の濱間國道六號線の改修工事は既報の如く今年度格的工事に入つたが現在は農繁關係にあるので出役人夫に不足を告げてゐるが田植終了後は一日平均三四百名を使役工事を促進させる開鑿區間は約六百五十米で道路面が七米五十天井巾が二十五米に切り擴げられ新設の鎌田橋に通じ交通に多大の利便を與へられるがこれが完成は遲くも明年六月頃にならう

一杯を要する鎌田山開鑿並に新橋の架換工事完了と共に着工の機運にあるので沿線町村長から成る同國道改修期成同盟會では此際これが實現を期して猛運動を開始する事となり平町を始め勿來　錦　植田　渡邊　磐崎　湯本　內郷　草野　大浦　四倉　久の濱の各町村長は明四日午前十時から平町會議事堂に參集當路へ陳情、其の他の協議を重ねる事となつた

鎌田山工事 愈よ本格的

完成は明春六月頃

前記國道改修の前提工事たる鎌田山開鑿はいよ〳〵本

新裝の磐女講堂で 愛婦第一回總會

愈よ來る十四日開催

會員一千名を擁する愛國婦人會平町分會の第一回總會は愈々來る十四日午前十時から新裝の磐女講堂で開催されるので目下講演會の講師招聘等準備に忙殺されて居るが會の趣旨普及の目的から多數會員の出席を望んでゐる

尚出席の際は是非會員章を佩用、服裝は質素、出欠通知は五日迄町役場宛に送られたいと

二毛作の 販賣統制協議

來月八日平町で

三日の縣農產物販賣委員會では小麥並に菜種の販賣統制につき協議するがその統制方針並に計劃の周知徹底のため縣主催で本郡は來る八日平町團体事務所で協議會を開催する、當日は帝農全購聯よりも出席する

赤井嶽の旭純榮師 大傳法院座主に就任

新義眞言宗に燭條を翳す

閼伽井嶽常福寺貫主新義眞言宗智山派管長旭純榮師は此程紀州根來山大傳法院座主に就任した

同院は和歌山縣那賀郡根來村に在り新義眞言宗の根本道場をなしてゐる。大治年間大師興敎大師の開基に係る。始め高野山に道場を營んだが大師の座主を兼ねた金剛峯寺との軋轢激しく後現在の場所に移して大師はそこに入寂した、日本寺院中最も複雜多岐、亘る沿革を有しその衆徒兵器を弄した事から秀吉の兵火にかゝり殆ど全滅し德川幕府にも允許されなかつたが德川賴宣紀州に封せられた以後歷代領主の保護を受けて中興し明治十九年以來新義眞言宗の中心をなしてゐる

平商敷地選定協議

來五日委員會

平町では五日午後一時から平商建設委員會を開き敷地選定其他を協議、尚同日午前十時から第四小學校委員會を開き豫定敷地に在る電

誰の齒が一番だらう

あす全國豫防デー

―第一低學年の齒磨敎練―

明四日は全國齲齒豫防デーです――平町各小學校では既報の如く趣旨の徹底を計る種々の行事を催すが第一校では尋常一、二年全兒童を校庭、集合の上『齒磨敎練』を行ふ、なほ各校とも優良口腔兒各級一名に對しライオン齒磨本舖より寄贈の刷子並に齒磨粉を與へる

一昨凶作年と同じ 心配なお天氣

小名濱の觀測に縣が警戒

繭高により喜んでゐる農民に對して氣候の變動――最近小名濱測候所の調査によると本年の氣溫は昭和九年の凶作年度の氣溫狀態と現在のところ全く同一經路を辿り、或は本年も九年度と同樣八月中下旬の大切な分蘖に急激なる氣溫の高下を見るのではないかと縣農務課ならびに測候所關係方面では非常に憂慮し今後の成行を重視する一方、凶作地域および昨年の冷害地百七十四ケ町村に對し極力縣の指導方針を施行せしめることゝなつた

村社改築費寄附者表彰

郡下左記諸氏は玉川村々社八幡神社改築費を寄附した廉により此程其筋から夫々表彰された

玉川村渡邊渡　渡邊守彌　駒木根忠三　駒木根春吉

丹野一馬　渡邊時次郎　駒木根長壽　新妻利三郎　渡邊美修　箱崎伊勢松　箱崎市松　石井平太郎　新妻酉松　鈴木安次　丹野太七郎　平町諸橋久太郎　植田町秋山市造　磐崎村佐藤吉尊　東京市役　渡邊謙藏

獵天狗連の犧牲 一萬六千七百餘

平署管內今期中の狩獵高

昨年十月十五日から今年四月十五日迄の狩獵解禁期間に平署管內でどれ位の鳥類が天狗連の犧牲になつたか？――此程纏つた統計によると雀の七千四百八十五羽を親玉に

山鳥三、六四〇　キジ二三四八　ハト一、一七六　兎一、〇一三　メスイタチ四一二　リス三四〇　キネズミ六

〆て一萬六千七百四十八で天狗が百三十名だから一人當り約百二十九の獲物をさげてニッコリ！としたわけだ

鈴木唯治氏 近日中退院

東京及び青森縣八戶市に支店を有し東北地方の土木建築界を風靡してゐる平町堀江工業株式會社專務取締役鈴木唯治氏は本縣土木請負業界の偉傑故前社長江口忠一氏物故後專務として同社を切り廻はし東京以北を殆んど寧日なく活躍してゐる少壯敏腕家であるが、去月上旬工事入札の爲靑森縣に出張旅行中突如急性肺炎に侵され、同縣八戶市八戶病院二十二號室に入院療養中であり社員一同病勢を憂慮してゐるも其後の經過極めて良好殆んど全快、來る十三日頃退院の見込みである

牛乳處理場

けふの總會で協議

郡下牛乳搾取業者總會は今三日午前十一時から平署會議室に開き牛乳處理場建設並に商業組合設立其他を附議した

永い間の問着も解決 鮫川愈第二期工事へ

着工は來月末頃か

昨報―永い間問着を續けてゐた鮫川堰水路改修問題は小名濱町の負擔金三萬圓の支出によつて、漸く縣と組合側との折合ひがつき縣の設計に從つて愈よ工費二十五萬圓の第二期工事を組合請負により行ふ事となつたので菊田方部氏は何れも喜んで居るが、着工は大体來月末頃になるだらう

今年度工事は第一期の繼續個所たる上遠野村皿貝地內よりサイホン工事を施して渡邊村洞地內に至る延長三里半の四分通りを進め明年度一杯を費して豫定工事の全部を完成せしむるもので

更に同組合では前記渡邊村洞地內より小名濱に至る第三期工事の計劃を進めて居るが、若しこれが完成の曉は愈よ小名濱で上水道を實施する筈で同水路はこの外築港漁船用にも使用され各方面に亘つて大動脈となるわけだ

拈華微笑（今日の問題）

內閣調査局廳舍の東北振興事務局階下一隅に、一昨朔日から東北振興兩會社設立事務所の看板が掲げられた、事務室、委員室の二部屋が兩會社誕生の產室である。ここに働く事務員十四、五名を詮衡するが事務員はその盛に新會社に引繼がれるので之が事實上の入社試驗となるわけ。就職難の今日來るは來るは希望者の履歷書が山積の有樣で東北振興は先づ失業救濟からのかたちとある　×

商工省では探鑛奬勵金交付規則を改正新に東北六縣に於て諸種の探鑛を目的として坑道を掘鑿せんとする鑛業權者に對して奬勵金を交付する事に決定し、昨二日より施行する旨省令を以て公布した。土地柄石城地方にとつては極めて耳よりな話　×

あすから全國一齊に齲齒豫防デー。親の脛を嚙る爲の口腔保健も何割かは出やう　×

磐炭の石炭液化が俄然評判になつた。從來顧みられなかつた遺利を拓く人造燃料の創始は常磐炭界にとつて少くとも一エポックたるを失はない、より良き成果を千祈萬禱する　×

草野、大浦兩村を跨ぐ明媚の夏井川口に幾十となく張られた四つ手網は見るも鮮新そのものである。四間四方疊三十二枚大の網にはマルタ、鯉其他雜魚がピチピチと銀鱗を躍らせて快い南薰が水面に漣波を漂す。描ける如き初夏情景

投槍

投書歡迎

街頭の投球禁止論

◇野球熱の勃興に伴ふキャッチボールの流行。吾人は幸にして未だ先年某市に起つたボールに的つた爲の流產事件には遭逸せぬが街頭に公行される之に多大の脅威を感じてゐる一人である

◇店頭に自轉車を立て掛けてゐる、その一歩前で白雲（病名白癬と云ふ）小僧から稀には主家の娘を窺崇する中僧大僧が適れ名投手を氣取つて發矢發矢投げ合ふ

◇斯くして鋪裝道路の何分かを占領される處へ引つ切り無しに乘合やトラックが而も無節制に飛び廻る！、之は强ち東京の話ぢやない、我が平町に於ける現前の光景である

◇ボールの受難を避ける爲に適々ガソリンくさい大往生を遂げる樣な事になつたら一体誰が責任を負つて呉れるか。結局『ボヤボヤしてるから』位の處で一切が解決されるではないか

◇店主も活動を見る位な小遣錢を與へよ、餘りに拘束した苛酷な使ひ方によつて人件費の節約も良からうが之が爲天下の公道を私し市民の綠地帶を奪ふやうな事は斷じて許せぬ

◇同時に當局の寛嚴宜しきに適した取締りを切望する（二丁目Y生）

敎育部會 春季總會

二荒伯を迎へて

來七日第一に開催

石城郡敎育部會の春季總集會は既報の如く來る七日午前九時より平第一校講堂に開き會員約五百名參集、會務報告、二十五年勤續並に五ケ年無缺勤優良敎員表彰會員の研究發表、役員改選等の外當日平少年團結團披露式のため來平する二荒芳德伯の講演あると

邪戀の人妻出奔

子供五人を殘して

宮城縣大河原町新田町鈴木忠一妻さつき(三二)は去月十七日夜子供五人を殘し情夫菅井平八(四四)と驅落ちしたが古河或は入山炭礦に潛伏してゐるではないかと三日忠一から平署に搜索願

遭難坑夫絕命

昨報內郷村高坂磐炭住吉坑內の逆行炭車にはね飛され瀕死の重傷を負ひ高坂病院で加療中だつた坑夫齋藤正雄(三一)君は昨二日午後二時遂に絕命した、尚同僚村上喜一郎(四〇)君は胸部に打撲擦傷で經過は良好であると

考へたりな八郎奴 僞電報で餞別詐欺

悪運盡きて遂に御用

小名濱町本町六七時計商松原芳郎方徒弟郡山市生れ鈴木八郎(三三)は去月中郷里からの僞電報で『自分は今度入營するんだ』と知人にふれ廻し餞別を貰つたり料理屋でドンチャン騷ぎの送別會を開かせてその儘突然行方を晦ましてしまつた、屆け出により平署で各署に手配搜査中二日早朝相馬郡原町の友人某方を訪れこの手を用ひんとした處を其筋に捕へられた

腹黒い上等兵殿？

軍服に勳章を騙取した 佐藤勝遂に尻尾を出す

軍服、勳章騙取犯人―信夫郡野田村大字上野寺佐藤勝雄事佐藤勝(二七)は郡山署の手配により昨夜平町一丁目飲食店一平方に立廻つた處を平署員に捕はれた

佐藤は一日午後一時頃安積郡喜久田村早稻原在郷軍人遠藤國光方を訪れ遠藤氏の留守を知るや妻女きみよさんに『自分は今日、日和田小學校に軍事講演に來たが餘り急いだ爲勳章を忘れて來たから一寸貸して下さい』と言葉巧みに欺き勳八等白色桐葉章、滿洲事變從軍記章、滿洲國建國功勞章、傷痍章等を借り受けその足で日和田驛前大內きくえ方を訪れ今度は陸軍砲兵上等兵の軍服、軍帽及靴等を騙取

堂々たる軍服姿に身をかため磐越線で郡內に入り込み草野村泉崎松本新一方から前記一平に立寄り上着を拔ぎ涼しい顏でチビリ〳〵やつてゐた處を遂に捕はれたもので身柄は今三日郡山署に護送されたが福島方面でも詐欺を働いてゐたものらしい

托兒所

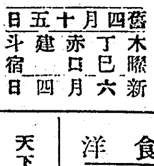
今月中開設される郡下の農繁期托兒所其後の分左の如し

△上遠野村上遠野町、深山田、瀧託兒所十四日より二十日まで　△平窪村中鹽、觀音寺十五日より二十四日まで

脫線三十男

相手を見損つて 大目玉を喰ふ

一日夜十一時頃平署の室井布施兩刑事が南町通りを密行中突然兩刑事に突き當り、まわらぬ舌で手前逹の橫目が氣に喰はねえぞとかゝつて來た泥醉三十男があつたので早速本署に連行調べた處この男は內郷村宮坑夫鈴木金之助(三九)で一しきり取調べが終ると『第一卷の終りーッ』と半ば氣狂ひのやうな事を云ふので一と晩同署の厄介になつてサン〴〵しぼられた上ヤット釋放された



舊四月十五日　新六月四日　木曜　丁巳　赤口　建　斗宿

諸判定應需　東京市本鄕區湯島四丁目　高島易斷總本部　神誠館

▲一白　くも間に日を仰ぎたる如き日事業落々と進む▲二黑　落付を失ひて益々輕卒に走り失策の重なる日▲三碧　針にかゝりし魚を水際てに逃がしたる如き日▲四綠　努苦も薄らぎ平順に歸せんとする日金談凶▲五黃　思慮を廻らして油斷なければ安全起業は凶▲六白　後日を期して輕動せず勇氣のかん養に努む吉▲七赤　九分まで成り遂げし事も一分にて敗らる▲八白　少しにても無理と思ひしれは禁控へよ▲九紫　氣運旺盛にして萬事調ふべし迷心は利なし

天氣豫報

小名濱測候所觀測

今晚は南東の風曇後雨　明日は南の風天氣次第によくなる

四日

日出	四、二二	月出後	六、〇七
日沒	六、四九	月沒前	三、一一
滿潮前	二、〇〇	干潮前	九、四五
後	四、四五	後	九、四〇

廣告

洋食 喫茶 宴會
コンパル
平町電話666

御座います。
毎度有難う

天下一品マヅイ 素人料理
おでん 榮ちやん
酒にやき鳥
冷ビールにサイダー
平・新田町・電三三番

急告
豆タク！の出現
豆タク！豆タク！豆タク！
春のドライヴに、商用に
迅速 低廉 市內三〇錢 市外地普通料金四割引
鈴木自動車豆タク部
四丁目 電話二一七

おでん一平の鳥の鹽蒸し……
冷いビールとサイダー
平町一丁目 一平
電話二六三番

石炭 一〇〇％サーヴヰス
時節柄ダンゼン値下げ！
一等塊 正味五十斤入一俵 金一拾八錢
特塊 同 同 金二拾五錢
品質が優良 目方が正確 〜デナケレバ〜 値段バカリ安クトモ結局高イモノニナリマス
此の點は當店を絕對に御信用願ひます。
▲市內は一俵より迅速に配達致シマス。
石炭 コークス 豆炭
電話三一七番
阿部石炭商店